

平成30年度決算の概要

1. 教育・研究及び医療環境の整備

(1) [教育関係]

- ①御井キャンパスでは、体育実技の充実を図るべく授業環境の整備を行いました。
- ②平成30年4月1日から、総合診療棟8階にクリニカルスキルトレーニングセンターを設置しました。
- ③附設高中校では、ICT教育関係機器の導入やグラウンドの環境整備を行いました。

(2) [研究関係]

- ①平成30年2月に竣工した基礎3号館の動物実験センターに、セフトイアイソレーションタイプのマウス用飼育装置を導入しました。
- ②私立大学研究ブランディング事業では、テラーメイドがん治療の開発普及の推進について取り組みました。

(3) [医療関係]

- ①平成30年8月に心大血管リハビリテーションシステムを導入し、安全かつ効率的な集団リハビリテーションが実施できるようになりました。
- ②医療センターでは、画像撮影装置を更新し、より安全で高機能かつ高品質な画像の提供が可能となりました。

2. 財務状況

【事業活動収支の状況】

事業活動収入計の564億9千7百万円から、事業活動支出計の561億3千9百万円を差引いた基本金組入前当年度収支差額は、3億5千9百万円（事業活動収入に占める比率は0.6%）となり、予算比で3億1千6百万円の増となりました。

内訳として、経常的な収支を示す経常収支差額は、9千1百万円となり、予算比では4億5千1百万円の増となりました。主な要因としては、教育活動収支における付随事業収入で収入増、人件費、教育研究経費及び管理経費で支出減となりました。

臨時的な収支を示す特別収支差額は2億6千7百万円となり、予算比で資産処分差額等により1億3千6百万円の減となりました。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計25億1千4百万円を差引いた当年度収支差額は、21億5千6百万円の支出超過となりました。

以上のことから、基本金組入前当年度収支差額は予算比で改善していますが、今後、さらなる収支構造の改善を図り、基本理念、将来構想の実現に向けて取り組んでまいります。

【資金収支の状況】

収入の部小計の827億5千7百万円から、支出の部小計の827億9千3百万円を差引いた当年度収支差は、△3千6百万円となり、予算比では5千8百万円の減となりました。

予算比の主な増減は、事業活動収支状況に加えまして、収入の部では資産売却収入の減。支出の部では施設関係支出、資産運用支出で減となりました。

以上の結果、翌年度繰越支払資金は、47億4千1百万円となりました。

【貸借対照表の状況】

資産の部合計は1168億5千3百万円で、前年度比20億1千8百万円減少しています。一方、負債の部合計は325億3千7百万円となり前年度比23億7千6百万円減少しています。基本金と繰越収支差額を合計しました純資産は843億1千7百万円となり、前年度比で30年度の基本金組入前当年度収支差額分の3億5千9百万円が増加しています。

◎財務書類等（財産目録・貸借対照表・収支計算書・事業報告書・監査報告書）の閲覧の請求は、財務部経理課で承ります。